

就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定試験

平成 27 年度 国 語 (40 分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は全 16 ページです。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの^{らくちょう}落丁・^{らんちょう}乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手をあげて試験監督者に知らせなさい。
- 3 試験開始の合図の後、受験地、受験番号、氏名を解答用紙に記入しなさい。
- 4 解答は、各設問の指示に従い、全て解答用紙の解答らんに記入しなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってかまいません。

1

次の1から5までの問いに答えなさい。

1 次の①から④までの各文の——線部のカタカナの部分にあたる正しい漢字を、それぞれのアからウまでの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

- | | | | | | | | |
|---|-------------------|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | 音楽にカ ン シ ンを示す。 | ア | 感心 | イ | 関心 | ウ | 歓心 |
| ② | 会議のシ ン コ ウ 役を務める。 | ア | 進行 | イ | 親交 | ウ | 信仰 |
| ③ | 職業にツ く。 | ア | 着く | イ | 付く | ウ | 就く |
| ④ | 学問をオ サ める。 | ア | 治める | イ | 修める | ウ | 収める |

2 次の①と②の各文の——線部の漢字の正しい読み方を、それぞれのアからエまでの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|--------------|---|----|---|----|---|-----|---|-----|
| ① | 問題の意 図 をつかむ。 | ア | いず | イ | いみ | ウ | いし | エ | いと |
| ② | 身なりを整 える。 | ア | そな | イ | とら | ウ | こころ | エ | ととの |

3 次の①と②の各文の——線部の漢字の正しい読み方を、解答らんにひらがなで書きなさい。

- ① 覚|悟|を決める。
- ② 説|明|を省く。

4 次の①と②のそれぞれの の中にあてはまる言葉は何か。後の語群の **ア** から **オ** までの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

① 雨が降っても、約束の場所に必ず行く。

② 今日のことは 忘れない。

ア たとえ **イ** なぜ **ウ** 決して **エ** まるで **オ** あたかも

5 次の①と②のそれぞれの の中にあてはまる言葉は何か。それぞれの **ア** から **ウ** までの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

① 引越しのごあいさつにきました。おうちの方は 。

ア おっしゃいますか **イ** うかがいますか **ウ** いらっしゃいますか

② 先生から お手紙は一生の宝物です。

ア さしあげた **イ** いただいた **ウ** まいられた

2

次の文章を読んで、後の1から6までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、それぞれのアからエまでの中から最も適切なものを一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

①

西アジアは地中海性気候です。地中海性気候の特徴は、雨期と乾期があり、冬の寒い時期に雨が降り、夏の暑い時期には雨がまったく降らないことにあります。乾期の夏には、気温も高温になるため、多くの野生植物は立ち枯れてしまいます。

一年で最も植物の状態が良くなるのは、三月から四月にかけてです。この時期、気温が上昇してうらかな日々が続き、家畜の餌となる野生植物が急激に伸び出すのです。自分の遺伝子をより多く残す観点からは、^{注1}子畜を最も環境条件の良い時に産むのが最適だろうと思われれます。しかし、ヒツジやヤギの子畜が誕生するのは、主に一月から二月にかけてです。

子畜は出生後、しばらくは^{注2}母畜からミルクを飲みます。子畜が、本格的に草を食^はむようになりだすのは一か月後です。その頃は、牧野の野生植物の状態が最も良くなっているのです。つまり、ヒツジやヤギの子畜は最も環境の良い時に誕生するのではなく、誕生して子畜が草を食むようになりだす頃が最適になるように誕生しているのです。ここに生命の神秘があります。この神秘にもミルクが関係しているのです。自然環境や交配・出産パターンなどをみると、ヒツジやヤギは地中海性気候に極めて^{注2}適した動物であると感じさせられます。

②

子畜への^{注3}哺乳は出生後三か月ほど続けられます。その後は、母子の隔離が最低二か月間はおこなわれて、^{注3}母子認識が消滅させられてしまいます。母畜も子畜も、実の子や母が分からなくなってしまうのです。母子間の認識がなくなると、母畜はもう子畜に哺乳しようとはしません。ただ、人にミルクが横取りされていくことになります。

^{注4}搾乳は一月中旬頃から始められ、哺乳と並行しておこなわれます。出生時期によって日数が異なるのですが、たいいてい出生後三日から二〇日してから母畜から搾乳が開始されます。初めに搾乳をしてから、あとに哺乳がおこなわれます。搾乳量は六月下旬から

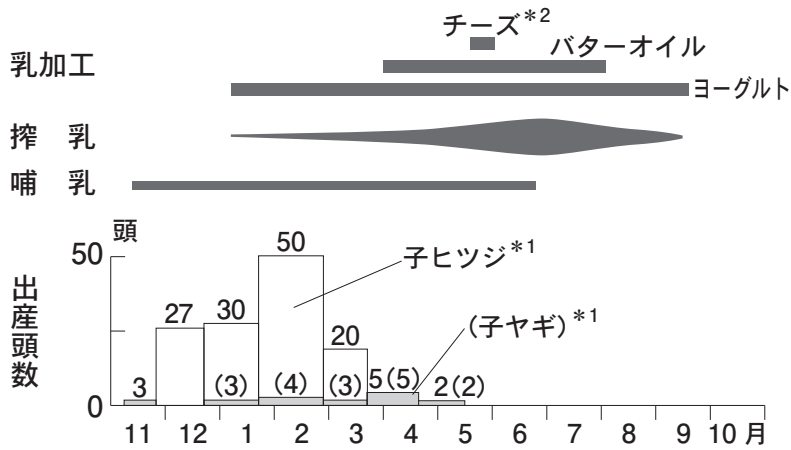
七月上旬にかけてが最も多く、九月下旬まで続けられます。ヤギのほうは約一月半ほど、ヒツジより遅い時期まで搾乳されます。放

牧する際、ヤギは群れから外れることが多く、群れ管理においてはヒツジよりも手間のかかる家畜です。しかし、搾乳期間が長期化する点に、ヤギを飼う意義が認められます。ヤギをも飼うことで搾乳できる期間の長期化が試みられていますが、それでも一年中はミルクを得られません。つまり、ミルクがとれない時期があるということです。このことが、人が家畜のミルクを利用する方法に決定的に大きな影響を与えることになります。

③

ヒツジやヤギの搾乳ができる季節は偏っています。一時期にたくさん生産されるミルクをどうするか、ミルクのとれない時期にはどうするか。それは、長期にわたりミルクを保存できるような状態に加工することにあります。

図1-1を見ると、搾乳ができる(5)月、ヨーグルトがつくられています。搾乳量が多くなり、毎日食べる自家消費のヨーグルトの量を上回って、一定のまとまった量が得られるようになります。ヨーグルトからバターやバターオイルがつくられるようになります。バターオイルとは、バターを加熱処理することによって、乳脂肪の純度を高めた乳製品です。凝乳酵素のレンネットを用いたチーズづくりは、五月下旬から六月にかけての約一〇日だけ、自家消費につくられています。これらのチーズやバターオイルを、搾乳ができない冬に、牧畜民は主に食べるようになります。チーズやバターオイルなどの乳製品は、現在では嗜好風味をこらした乳製品ではありませんが、もともとは「保存食」だったのです。



* 1 ヒツジ 210 頭、ヤギ 40 頭から生まれた子畜頭数

* 2 凝乳酵素のレンネットを用いたチーズ

出典) 平田(1999).

図1-1 筆者が調査したシリア内陸部のヒツジ・ヤギの出産頭数、哺乳・搾乳、および乳加工の季節推移

(平田 昌弘『人とミルクの1万年』による。)

(注1)子畜……子の家畜。

(注3)哺乳……乳を飲ませて子供を育てること。

(注2)母畜……母親の家畜。

(注4)搾乳……牛などの乳をしぼること。

1 子畜が草を食むようになりだす頃 とは、いつ頃か。

ア 雨がまったく降らない時期

イ 野生植物が立ち枯れる時期

ウ 野生植物が伸び出す時期

エ 子畜がミルクを飲み出す時期

2 適合した とは、どのような意味か。

ア 似ている

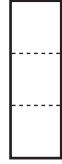
イ あてはまる

ウ 同じである

エ 含まれる

3 母子認識が消滅させられています とあるが、人がそのようにする目的を説明した次の文の空らんには、文章中から最も適切な言葉を三字で抜き出さない。

ミルクを



するため。

4 このこと とはどのようなことか。

ア ヤギもヒツジも、搾乳と哺乳が並行しておこなわれること。

イ ヤギの群れ管理はヒツジよりも手間がかかってしまうこと。

ウ ヤギを飼うことで、ミルクを搾乳できる期間が長期化したこと。

エ ヒツジとヤギの両方を飼ってもミルクをとれない時期があること。

5 (5)に入る適切な言葉はどれか。図1-1を参考にして答えなさい。

- ア 期間全体にわたり
- イ 期間をこえて
- ウ 期間の一部で
- エ 期間以外の時期に

6 この文章には、内容ごとに次のAからCの小見出しが付けられている。文章中の [①]、 [②]、 [③]に入る小見出しの組合せとして正しいものはどれか。

A	子畜が生まれるのは最も季節の良い時期ではない
B	ミルクの加工の本質は“保存”
C	ミルクの生産にも季節性

- ア ① A ② B ③ C
- イ ① A ② C ③ B
- ウ ① B ② A ③ C
- エ ① C ② B ③ A

3

次の文章を読んで、後の1から6までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、アかイ、あるいはアからエまでの中から最も適切なものを一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

魔法のようにうまくいったわけではなかったものの、それから一時間くらい、原稿用紙と格闘して、やっと、ふたつの詩を仕上げることができました。どちらも、ぱつと頭に浮かんできた光景、身近で起こったできごとを、そのまま言葉に置きかえただけのものです。それぞれ違ったタイトルをつけて、でも、全体のタイトルを「希望」にしました。

先生に何か言われたら、片方の詩は大きくて深い希望がテーマで、もう片方は小さくてかわいい希望です、つて言えばいいやと思っていたのです。あるいは、片方は希望の色、もう片方は希望の香り。

ぱつと頭に浮かんできた光景は「菊花展」^{注1}で、詩のタイトルは「菊」⁷にしました。

去年の秋、家族みんなで出かけたデパートで、たまたま催されていた菊花展を觀賞していたとき、ひとりの老人と出会ったエピソードをもとにして、書いた詩でした。もっと正確に言えば、その老人とは、出会ったのではなくて、わたしが老人を見かけた、ということなのです。

注2

白い杖^{つえ}を持った人が

くいているように、菊を見ている。

あざやかな黄色の菊を見ている。

その人の目は灰色に暗くしずみ

明るいひとみの輝きを持たない。

その人は何を見ているのだろう。

その人の目にはいったい

何がうつっているのだろう。

菊の底知れない美しさをさがすように

その人はじつと菊を見つめている。

まるで地面にすいついたかのように

その人は動かない。

その人の手は微妙に動き

その見えない目は異様に光る。

その人は菊の何を見ているのだろう。

その人は菊に何を求めているのだろう。

やがてその人は静かにうつむき

見えない目を、今度は白い菊に向ける。

その人はうす紅色のほつぺたに

しわだらけの手をそつとあてて

やさしくほほえむ。

もう一編は、今年のはじめに身近で起こったできごとをもとにして、タイトルは「乳液と弟」。

学校から帰ると弟が

スリッパの音をパタパタいわせて走りよってきた。

「机の上においし²そうなものがあるよ」

——おしゃれなおねえちゃんへ。母より

たのんでいた乳液だ。

平べったい四角いガラス瓶に

「レモン」と英語で書いてある。

となりに小さな文字で「しなやかなお肌をつくります」

夜、ホームごたつのなかで、みかんを食べながら

弟としゃべる。

「おねえちゃん、しなやかなお肌って、どういふこと？」

「すべすべとしてること」

「乳液って、どうするもの？」

「顔につけるもの」

「ぼくもつけていい？」

「女の人だけがつけるの」

弟はなぜか、わたしの乳液にこだわる。

翌朝、めずらしく弟が早起きをしている。

朝食のとき、なにげなく弟のとなりにすわった。

ぷーんとにおう。たまらなくいい匂い。

レモンのような……

あつと声をあげて、急いで見に行った。

³ やっぱり……

乳液は半分になっている。

パチンと軽く弟のほつぺたをたたいたら、
わたしの手にべっとり乳液がついた。

夜、お風呂から上がって乳液をつけていると

ベッドのなかの弟の小さな目が

じつとこつちを見ている。

つんとすまして得意そうに、ペタペタとつけた。

うらやましそうな目だ。

わたしは、人さし指のさきつちよに乳液をつけて

弟の鼻の頭にくつつけてやった。

くつつくつ……

笑いをこらえている弟の顔は、今にもゆがみそう。

寝る前に、弟のベッドをのぞいてみた。

弟は鼻の先に乳液をつけたまま

気持ちよさそうに寝ていた。

二編の詩を提出してほどなく、文芸クラブの顧問の先生から「大事な話があるの」と、放課後、図書室に呼び出されました。

ああ、やっぱり、と、わたしはうなだれました。

これは「作文じゃありません」って言われるんだろうな。「やり直し」あるいは「書き直し」を命じられるんだろうな。あーあ、うんざりだなあ。

おずおずと、頭を甲羅こうらのなかに半分ほど引っこめている亀になったような気持ちで、図書室に顔を出すと、あれっ！ 談話コーナーのソファアーに腰を沈めて、わたしを待っている先生の顔は、にこにこしているではありませんか。

それだけではありません。

さらに驚いたことに、わたしが先生の向かいに座るとすぐに、先生はこう言ったのです。テーブルの上から、原稿用紙の束を取り上げて。

「これね、どつちもすぐよかったわよ。それぞれの『希望』もよく表れていたし」

「え？」

だったか「あ？」だったか、わたしの反応は「う？」だったかもしれません。

「ただね、ふたつの詩をむりやり『希望』というひとつのタイトルでまとめてしまうのは、ちょっと惜しい気がするの、それぞれの詩を独立した形で、掲載するようにしましょう。読んだ人がそこから『希望』を読み取れたら、それでいいわけだから。どちらも本当によかったわよ。私、感動しました」

か、感動？ まさか。

⁴わたしの頬ほおはまっかに染まっています。

あり得ないことが起こった。夢みたいなきっかけが起きている。

けれど、これは夢ではなくて、現実。目の前で起こっていることです。

先生はわたしの目の前で、「大事な話」のつづきをしています。先生が手にしているのは「乳液と弟」というタイトルの詩。小さな希望の方です。

「この詩には、とつても生き生きとした情景、生活感があふれていて、なんていうのかな、ほほえましくて、かわいらしくて、おねえさんが弟を思う気持ちもよく伝わってくるし、等身大の素直な言葉が、とつてもすてきでした。行間からいい香りもしてきましたし」

先生には「希望の香り」が伝わったんだなと思い、わたしもまた、あの朝、弟の顔から匂ってきたレモンの香りを思い出していました。

「それから、こちらね。こつちはそれとは対照的で」

そう言いながら、先生はもう一編の詩「菊」を取り上げて、二枚の原稿用紙をテーブルの上に並べて置きました。

「深く感動したのは、実はこっちなの。ところでこれは、本当に起こったことかしら？」

先生はまっすぐにわたしの目に視線を当てて、そう言いました。そのときの先生の目は、決して笑ってはいませんでした。

「あ、いえ、はい、ほとんどは実際にあったことです。半分くらいは」

「じゃあ、残り半分は？ 想像なの？」

「はい……」

確かにあの日、菊花展で見かけた人は、手に白い杖を持っていました。とはいえ、実際に目の不自由な人だったのかどうかは、わかりません。ただ、その人のそばに寄り添っている人の仕草や行動から察すると、そのように思えたのです。もしも、この人の目が見えないのだとしたら、この人はいったい、どんな菊を見ているのだろう、と、わたしは興味を抱きました。興味というよりも、どこか感動に近いような感情でした。もしかしたら、「わたしには見えないもの」「わたしには見えない色や形」「わたしには見えない菊の美しさ」をこの人は見ているのではないか。

そういう「妄想」がよくなかったんだろうなあ、などと思っていると、

「もしも一部が想像と創作だとすれば、そこがいちばん、よかったわ」

と、先生は言うではありませんか。

「本当にあったことじゃなくて、あなたの『想像』だったからこそ、⁵この作品が生きて、命を持ったんだと思います」

(こでまり 小手鞠るい『思春期』による。)

(注1) 菊花展……菊の花の展覧会のこと。

(注2) 白い杖……目の不自由な人が歩行するときを使う、周囲の様子を知るための杖。

1 希望の色 とあるが、希望の色がテーマになっている詩は「菊」、⁷「乳液と弟」のどちらの詩か。

2 おいしそうなもの とあるが、何か。

ア 乳液

イ レモン

ウ みかん

エ 朝食

3 やっぱり…… とあるが、これは、弟の行動が、「わたし」の予想したとおりだったことを表している。「わたし」はどんなことを予想していたか。次の文の にあてはまるように、十字以内で書きなさい。

弟が

こと。

4 わたしの頬はまっかに染まっていました とあるが、この時の「わたし」の気持ちはどれか。

ア 先生に詩のやり直しを命じられると、実際に予想したとおりだったので驚いた。

イ 先生に詩のやり直しを命じられると、実際に先生に注意されたので悲しくなった。

ウ 先生に詩のやり直しを命じられると、意外にもほめられたのでうれしくなった。

エ 先生に詩のやり直しを命じられると、意外にもほめられたので腹立たしくなった。

5 この作品が生きて、命を持ったんだ 5
という部分を言い換えた次の文の空らんにあてはまる言葉はどれか。

「わたし」のつくった作品が、先生を（ ）させた。

ア 格闘

イ 観賞

ウ 創作

エ 感動

6 「わたし」が書いた二編の詩の特徴は何か。

ア 「乳液と弟」は出来事から想像したことを交えて書かれているが、「菊」は自分自身の体験を中心に書かれている。

イ 「乳液と弟」は自分自身の体験を中心に書かれているが、「菊」は出来事から想像したことを交えて書かれている。

ウ 「乳液と弟」、「菊」のどちらの作品も想像したことではなく、自分自身の実際の体験のみが書かれている。

エ 「乳液と弟」、「菊」のどちらの作品も体験したことではなく、出来事から想像したことのみが書かれている。

田中さんは、「身近な職業調べ」を行うことになり、近所にある魚屋の店長にインタビューをすることにしました。次は、インタビューする際に用意した【準備のメモ】と実際の【インタビューの一部】です。これらを読み、後の問いに答えなさい。

【インタビューの一部】

田中さん 今日、1 ために来ました。早速ですが、

お店の営業時間を教えてください。

店長 営業時間は、十時から夜の八時までですよ。

田中さん 十時から営業ということは、朝の準備は八時くらいからですか。

店長 とんでもない。毎日四時には市場に行っていますよ。

田中さん 毎朝四時ですか。大変ですね。どうしてそんなに早いのか。

店長 いい魚を仕入れたいからです。いいものからすぐになくなってしまいますからね。お客さんにおいしい魚を提供するためには、大変でも早く仕入れに

いくのは大切なことなんです。

田中さん お客様のためとはいえ、本当に大変なお仕事ですね。では、魚屋という仕事をしていますよ。思っていたときはどんなときですか。

店長 お客様の笑顔が見られたときですね。「昨日買った魚、おいしかったよ」と言っていたときは最高ですよ。

田中さん お客様のために、工夫されていることはありますか。

店長 工夫していることは、店の前の看板に今日のおすすめの魚を書くことと、その魚の調理の仕方を簡単にまとめたレシピを無料で配っていることです。

田中さん

3

【準備のメモ】

○目的

身近な仕事の魅力を知る。

○必ず聞くこと

- ①仕事をしていて大変だと思うこと
- ②仕事をしていてよかったと思うこと
- ③お客さんのために工夫していること

1 1 に入る田中さんの言葉はどれか。一つ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

ア お客さんを集める効果的な方法を知る

イ 魚屋さんという仕事の魅力を知る

ウ 様々なお店の営業時間を知る

エ どうしたら魚屋さんになれるのかを知る

2 田中さんのインタビューの言葉の中で、**ふさわしくないもの**があります。その言葉を【インタビューの一部】から抜き出しなさい。

3 3 で田中さんは、店長さんの答えたお客さんのための工夫について、さらに質問をしようと思います。どんな質問が考えられますか。二つ書きなさい。